

問 市民病院 48-5050

体の不調を感じた時、「何科を受診すればいいの？」と迷ったことはありませんか？そんな不安に寄り添い、特定の臓器や病気だけでなく「人」をまるごと診る総合診療科医が2人新しく赴任しました。秋頃には、更に1人の医師を迎える予定です。

総合診療科では、患者さんの生活背景や退院後の暮らしまで見据えた、地域に根ざした医療を目指しています。

今回は、新たに赴任した2人の医師に話を伺いました。知っているようで知らない総合診療科の役割について紹介します。



Q. 総合診療科ってどんなところ？

A.

高齢化が進む地域の医療ニーズに応じ、総合診療科は外来や病棟などで患者さん一人ひとりの状態やよくみられる病気・症状から複数の病気が関係する複雑な健康問題まで、幅広く対応する診療科です。特定の臓器や病気だけにとらわれず、原因のはっきりしない症状や、複数の病気・健康上の困りごとを抱える患者さんを体だけでなく、心や生活背景、ご家族の状況も含めて総合的に診療します。

外来では、「何科を受診したらよいか分からない」ときの最初の相談窓口となり、必要な診察や検査、初期対応を行った上で、適切な専門診療科や地域の医療機関につながります。

病棟では、診断がまだ定まっていない患者さんや、複数の病気を併せ持つ患者さんを、専門診療科や多職種と連携しながら総合的に診療します。病気そのものだけでなく、退院後の生活も見据え、その方にとって最も適した医療や支援を一緒に考えることも、総合診療科の大切な役割です。



総合診療科に新しく赴任した先生を紹介します

栗坂信一郎 先生

「患者さんが納得して最期まで自分らしく過ごせること」を大切に思い、総合診療科医を目指す。市内クリニックでの訪問診療経験あり。

7か月の子どもの父親として子育て奮闘中。趣味は料理で、碧南名産のみりんや白しょう油を料理に使うことを楽しみにしている。



高橋由佳 先生

文学部出身の経歴を持つ。研修医時代に「何科の担当か判断しにくい高齢者の症例」を経験し、総合診療の必要性を感じ専門の道へ。

2歳と3歳の母親で、休日は子どもと砂遊びをしたりゼリーを作ったりと、家族との時間を大切にしている。



Q. どんな人が診てもらおうの？

A. 外来では、発熱、だるさ、食欲不振、痛み、めまいなど、どの診療科を受診すればいいかわからない方を幅広く対象としています。また、複数の病気を抱える方や、心理的・社会的な背景が健康に影響している方についても、総合的に診断・治療を行います。病棟では、診断がまだ確定していない患者さんや複数の病気を併せ持つ患者さんに対し、各科の専門医や多職種と協力しながら診療を行います。



発熱、めまいなどどの診療科を受診すればよいか分からない方



複数の病気を抱える方



心理的・社会的な背景が健康に影響している方

Q. 総合診療科の強みは何ですか？

A. 総合診療科では臓器や病気だけでなく、その人の心理的・社会的な背景も組み込んで診療をします。さらに、患者さんや家族と話す際に、価値観や生きがいをしっかり聴き取り、患者さん一人ひとりに合わせた対応ができるよう心がけています。

また、予防、ヘルスマネジメントという点でも特長があります。例えば、ワクチンの重要性を伝えたり、薬をたくさん飲んでいる状況を是正したり、食生活や生活習慣の指導、再入院しないような再発予防にも、力を入れています。

Q. 総合診療科に行けばどんな病気も治療してくれますか？

A. 総合診療科で対応できる場合は当科で治療を行います。必要に応じて各科の専門医や看護師、ソーシャルワーカーやリハビリのスタッフなど多職種で連携し動いていきます。その連携のつなぎ役といった側面も強いと感じます。



粟坂先生、高橋先生から市民の皆さんへメッセージ

私たちは臓器や病気だけを診るのではなく、患者さんの体、心、生活、社会的背景を含めて、全人的・包括的に診ることを大切にしています。

また、患者さん一人ひとりの人生や価値観に目を向け、その方にとって何が最も良い医療かを一緒に考えるよう心がけています。丁寧な問診と身体診察を基本に、必要に応じて各科の専門医や地域の医療・介護関係者と連携しながら、患者さんの生活を支えていきます。

「どの診療科にかかれればいいかわからない」「いくつもの病気があって相談先に迷う」といった時は、ぜひ総合診療科にご相談ください。可能な限り悩みをひもとかせてもらいながら、必要に応じて、各科の専門医を紹介させていただきます。

どんな悩みでも、敷居を低く受診していただけるとうれしいです。これからも患者さんの生活に寄り添い、地域の皆さんに安心して受けていただける医療を提供できるように、日々研さんを重ねてまいります。



患者の人生をサポートする



市民病院
病院長 杉浦誠治

碧南市でも超高齢化が進展し、当院を受診される患者さんの平均年齢も年々高くなっています。こうした現状と、これから求められる医療の姿を見据えたとき、総合診療科の役割が非常に重要になると考え、総合診療科医を招へいしました。

高齢になるほど、複数の病気を併せ持つ方が増えていきます。病気同士が影響し合うことも多く、個々の臓器だけを見るのではなく、患者さんを全人的・包括的に診る視点が欠かせません。総合診療科は、まさにその中心となる診療科です。

また、病気が完全に治らない場合であっても、「どのようになればその人らしく、より良く生活できるか」を一緒に考え、退院後の暮らしまで見据えて支えていくことができます。治療だけでなく、人生を支える医療を提供できることが総合診療科の大きな強みです。

今後は、総合診療科の医師と各科専門医が連携しながら診療にあたることで、医療の質をさらに高め、市民の皆さんの健康をより一層支えていきたいと考えています。